

平成31年1月24日に地下水保全顕彰委員会を開催し、平成30年度の認定企業・団体が決定しました。

地下水保全顕彰制度

第2回 最優秀グランプリ、平成30年度 認定企業・団体決定!

地下水保全顕彰制度とは、熊本地域の企業・団体の地下水保全活動を顕彰し、諸活動を称賛することで地下水保全の機運を高めるとともに、社会貢献を広報する手段として活用して頂き、更なる地下水保全の促進及び環境保全に対する評価を高めることを目的とした制度です。

この制度では地下水保全の取り組み状況を点数化し、その点数を基に審査を行い、ゴールド・シルバー・ブロンズに認定しています。また、ゴールド認定された企業・団体の中から3年に1度、最優秀グランプリとして顕彰しています。

第2回
最優秀グランプリ

- ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
熊本テクノロジーセンター

平成30年度
認定企業・団体

- シルバー認定
 - コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 熊本工場
 - 内村酸素株式会社
- ブロンズ認定
 - 千代田工業株式会社
 - 水道町親和会

取り組み内容を一部ご紹介いたします。



社内農産物販売会

社員で田植えの様子

森林保全活動

節水トイレへの変更
1回の使用量5L減

地下水かん養米の購入

来年度も地下水保全に取り組む企業・団体のご応募をお待ちしております。

※詳細は、くまもと地下水財団ホームページをご覧ください。

平成30年6月から12月末までにご加入いただきました会員の皆さまをご紹介します。

株式会社水の杜アイリープ、株式会社本山設備、株式会社みどり印刷社、蕉鹿之夢 快心峯、一般財団法人火の国ハイツ、医療法人社団 豊徳会 豊田消化器外科医院、上熊本三陽自動車学校、株式会社建吉組、学校法人九州学院、有限会社中川産業
《個人》木下 修一、白石 三千治、吉澤 正宏、永戸 成佳、江藤 徳幸、石田 智寿、上妻 秀明、岩本 清昭 (敬称略)



水の国の豊かな恵み。
子供たちに残すために
私たちにできること。

Photo:西原村冬期湛水

NEWS!

第4回 アジア・太平洋水サミット 2020年10月熊本開催決定!!



2020年10月19日から20日までの二日間、第4回アジア・太平洋水サミットが熊本で開催されることが決定しました。このサミットはアジア・太平洋地域49か国の水問題に関する首脳・閣僚級の国際会議です。このサミットでは熊本が行政区域の範囲を越えた「熊本地域」の住民・事業者・行政による連携・協働のもと、地下水保全の取り組みを展開し、多くの効果を挙げていることや、熊本地震からの復興を世界にPRすることができる絶好の機会とらえています。財団はサミット開催についての広報を行うとともに、熊本地域住民や事業者、行政のみならずと協働し、くまもとの地下水保全の取り組みや地下水の魅力発信を行っていきたく考えています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

皆さまからの寄付や会費により、様々な地下水保全活動を行なっています。

調査

地下水保全対策の効率・効果的な推進を図るために、地下水の水位・水質、流動や流出など熊本地域の現状、メカニズムの把握を行うとともに、熊本地域における地下水管理手法を確立するための事業を実施しています。

地下水保全効果の「見える化」を図るため、森のかん養量や田んぼの水がどれ位地下にしみ込んでいるか減水深調査し、また地下にしみ込んだ水はどのように流動しているかなどを調査研究しています。

かん養

熊本地域の絶対的な地下水量を増やすために、農林業と連携し、冬期の水田を利用したかん養事業、かん養域の水田保全につながる農産物のブランド化の推進や水源涵養林の整備などの事業を実施しています。

平成30年度は、ウォーターオフセットプロジェクトとして「地下水を育む米」2,344kg(43事業所)を仲介販売しました。これは熊本地域の地下水46,880m³のかん養に貢献したことになります。また、冬期湛水事業では約29haの水田に水を張り約170万m³(暫定値)の地下水かん養を行いました。

※「かん養」とは、地表の水が地下へ浸透し地下水となること。

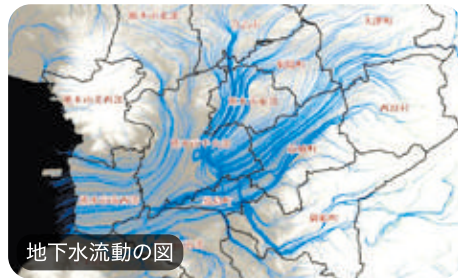
啓発

熊本地域の重要な資源である地下水を後世に継承し、活用していくために、地下水保全意識の向上のための水環境教育、啓発活動、地下水の使用適正化に向けた節水活動などを推進する事業を実施しています。

地下水の成り立ちや地下水保全について学ぶシンポジウムなどを開催しています。また、子どもたちへの啓発として、高校生フォーラムなども実施し、若い世代が地下水保全について考える機会を設けています。



減水深調査



地下水流動の図



水田オーナー制度



かん養林整備



森のかん養量調査



学術顧問会議



冬期湛水事業



ウォーターオフセット



高校生フォーラム



シンポジウム



イベントでの啓発



バスツアー

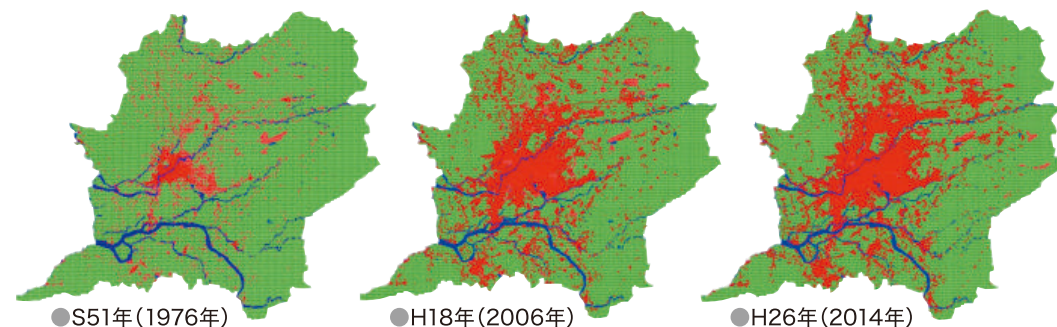
数字でみる地下水保全

かん養域の減少

近年、地下水を育む水田や畑などが社会環境の変化によって減少しています。田畑や森林などの水が浸透しやすい土地のことを「かん養域」、宅地や市街地などの水が浸透しにくい土地のことを「非かん養域」といいます。この「非かん養域」が広がることは、地下水が減っていくことにつながります。

S51(1976年)→H26(2014年)

38年で **かん養域:約15%減少!** **非かん養域:約2倍増加!**



(熊本市発行「世界に誇る地下水都市熊本」より)

江津湖湧水量の変化

地下水が減ると湧水量も減少します。1992年の観測開始から江津湖の湧水量は減少傾向を示していましたが、近年は横ばいで推移しています。地下水はダムのように貯めておくことができません。地下水保全の取り組みを止めた場合、地下水量はまた低下していくことが懸念されますので、継続的な地下水保全の取り組みにより、地下水を育み、増やしていくことが大切です。

H4(1992年)→H28(2016年)

日平均湧水量 56万m³/day

日平均湧水量 45万m³/day

24年で
約20%減少!

